道　徳

福島県中学校教育研究会道徳専門部報　№５４

令和４年３月４日発行
発 行 者　福島県中学校教育研究会道徳専門部
責 任 者　伊藤　隆幸
事 務 局　福島市立西根中学校（024-542-4641）

「特別の教科　道徳」の授業改善

福島県中学校教育研究会
道徳部長　伊　藤　隆　幸

1958年に「道徳」が特設されて、60年余りがたち、現指導要領において「特別の教科　道徳」として新たに位置づけられました。

これまで、固定的１単位時間での授業、価値項目を細分化し取り扱う授業、読み物資料重視の授業、教師主導の教え込みの授業、このような授業から脱却をめざしながら、現場での教師の生き方を生かし、問題意識を持ちながら行う道徳の授業が模索されてきました。

「特別の教科　道徳」に教師が積極的に関わり、人格の形成を図る上でどう活用していくかが問われています。年間35時間をどう組織し、どう運用することが価値あることかを考えていくことが大切になります。

「特別の教科　道徳」の完全実施に伴い、学校現場では、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるための指導の工夫が、多く実践され、その共有も図られてきました。思考ツールの活用、ＩＣＴの活用、評価シートの開発などその取組は多種多様にわたっています。しかし、それは「手段」にすぎません。

教師が授業を構想するときに、方法論に偏りがちですが、まずは道徳教育というのは何なのかという本質的な部分を理解することが重要です。道徳科は生徒の道徳性を育てていくものです。このことは、ショートスパンでは養えるものではないため、ロングスパンで積み上げていくことが求められます。そのためには、生徒が主体的に学び自分事として考えられる授業が大切になってきます。このことを意識しながら、学校の道徳教育全体計画や年間指導計画をもう一度見直し、３学年間を見通した計画的、発展的な指導に当たることがとても重要になってきます。

そして、今後の実践においては「生徒の実態」を捉え、生かした授業が望まれます。「実態」に応じ、道徳的価値へのアプローチを考えていくことが大切です。「生徒の実態」を捉えることによって、生徒がどれだけ成長したかという視点での評価も可能になります。

中学校教育研究会道徳部会は、授業実践を積み重ねる中で授業改善に取り組む組織でありたいものです。各部員の皆様のご協力をお願いいたします。

令和４年度～令和６年度研究主題・副主題について

研究主題（令和４年度～令和６年度）
「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか。」

《研究副主題の概要》

〈令和４年度〉 自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる指導方法の工夫 中学校学習指導要領解説 「特別の教科　道徳編」P.83　（４）	生徒の感性や知的な興味などに訴え、生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合い、さらに考えを深めることができるように、ねらい、生徒の実態、教材や学習指導過程などに応じた適切な指導方法を研究する。 ・教材を提示する工夫　・発問の工夫 ・動作化、役割演技など表現活動の工夫　・板書を生かす工夫
〈令和５年度〉 自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫 中学校学習指導要領解説 「特別の教科　道徳編」P.93　（２）	生徒が自分自身のものの見方や考え方、感じ方の根拠やよりどころを明らかにする過程を通して自分を見つめ､見直すことのできる指導方法について研究する。 ・他者と討論すること ・書く活動
〈令和６年度〉 自己の学びと自らの変容を実感することができる評価の工夫 中学校学習指導要領解説 「特別の教科　道徳編」P.114　（３）	生徒が道徳的価値の理解を自分との関わりで深めていることを実感でき、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる、いろいろな評価の方法について研究する。 ・生徒の作文やエピソード、レポートなどの蓄積 ・年間を通した計画的な評価の工夫とその蓄積 ・複数の教師による指導形態の工夫と多面的・多角的な評価の工夫

福島県中学校教育研究協議会県北・相双大会

本年度10月7日に開催予定の福島県中学校教育研究協議会県北・相双大会は、新型コロナウイルス感染拡大により、福島県内にまん延防止等重点措置が適用されたことを受けて中止となりました。協議会での授業提供を目指し、研究を推進いただいた相馬市立中村第一中学校、相馬地区道徳研究部員の皆様には心より感謝申し上げます。詳しい研究の概要については「令和３年度　研究集録－県北・相双大会－」をご覧いただき、ここでは、その一部をお知らせいたします。

研究主題（平成30年度～令和２年度）
「人間としての生き方についての考えを深めるための学びはどうすればよいか」
研究副主題　「生徒の学びの姿を見取る評価の工夫」

中村第一中学校においては、全校道徳や学年道徳、ＴＴによる授業実践により、複数の指導者が多面的・多角的に生徒の学びの姿を見取り評価する実践を継続して取り組んできた。また、評価を蓄積し変容を見るためのＯＰＰシートの活用や様々な思考ツールで自他の考えを可視化したり、ロイロノートやスクールタクトなどのＩＣＴ活用で交流を深めたりするなど、学びの経緯を蓄積することにより評価の工夫に積極的に取り組んできた。

【第１分科会】

第１学年１組
主題名　新しいものを生み出すときに
Ａ－５真理の探究、創造
教材名　「『どうせ無理』という言葉に負けない」

【授業自評】

本時では、ＴＴによる授業の実践を試みた。教員が２人になることで、担当する生徒数が減り、意見の把握にかける時間を短縮することができた。それに伴い、発表の時間を多く確保することができた。また、ある意見に対し、反対の立場を取る意見を抽出することも容易なため、様々な考えや価値観を共有させることができたという点でも効果的だったと判断できる。

「自分の可能性を伸長させるためには、時に困難なことにチャレンジする精神が必要となる。」という意見に賛成の立場を取る生徒が多い一方で、「実際には、困難なことに自ら挑もうとは思えない。」という意見が挙げられた。このことにより、本時のねらいとする価値観について、多面的・多角的に意見を交流することができた。

机間支援を充実することにもつながったことで、全ての生徒が与えられた課題に対し、自分の考えを挙げることができた点も成果だと言える。

【第２分科会】

第２学年
主題名　あきらめない気持ちで
Ａ－４　希望と勇気、克己と強い意志
教材名　「左手でつかんだ音楽」

【授業自評】

この授業では、生徒からの発言からねらいとする価値に迫るために、色分けされた付箋を使用した。この付箋は、①「生徒が主人公の苦悩とその先の希望を対比する」、②「教員が各学級の生徒からバランスよく意見を集約する」という役割を期待していた。グループによっては「希望」に対してポジティブな意見が多くを占める班も複数ある中で、全体共有の場で他の班からのネガティブな意見にも触れることができた。そのことから自分の生活に置き換えた発問を考える際に、「希望を持ち続ける」といった単純な考えではなく、前置きとして「人生には困難なこともあることを覚悟したうえで」といった意見も見られ、自分の考えに深まりを持たせることができた。

複数の教員が各班に対して補助発問を投げかけることで、生徒が活動に緊張感を持って積極的に意見を発表したり、意見に対し問いかけをしたりするようなやり取りが見られた点が、学年道徳としての成果であった。

令和４～６年度研究主題・副主題について

研究主題（令和４年度～６年度）

「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか」

《研究主題の解説》

道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と示された。

今後グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立する場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要である。

生徒の道徳性を養うために、道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解し、多様な価値観の存在を前提に他者と協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察することが求められる。そこで、他者との対話や議論を大切にしながら、人間としての生き方を自覚し、深く考え、日常生活や今後出会うであろう様々な状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるよう指導を行う必要がある。これまでの実践を捉え直しつつ、指導の効果を高めるために本主題を設定した。

令和４年度　副主題　「自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる指導方法の工夫」

○　自己を見つめる

様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省することが求められる。その際には、真摯に自分と向き合い、自分との関わりで改めて道徳的価値を捉え、一個のかけがえのない人格としてその在り方や生き方など自己理解を深めていく必要がある。また、自分自身が人間としてよりよく生きていく上で道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題に気付き、自己や社会の未来に希望が持てるようにすることも大切である。

○　物事を広い視野から多面的・多角的に考える

「主として自分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の四つの視点を踏まえ、多面的・多角的に考察することは、諸事象の背景にある道徳的諸価値の多様性に着目させ、それを手がかりに様々な角度から総合的に考察し、いかに生きるかについて主体的に考えることが大切である。

さらにそのための指導の工夫として、「生徒の発達や個に応じた指導の工夫」や「問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫」が求められる。

「生徒の発達や個に応じた指導の工夫」

- 生徒一人一人や学級、学年の傾向をよく把握し、適切な指導を工夫する必要がある。
- 生徒一人一人が道徳科の主題を自分の問題として受け止めることができるように指導を工夫し、興味や関心が高められるように配慮することが大切である。

「問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫」

- 実際の生活においては、複数の道徳的価値が対立し、葛藤が生じる場面が数多く存在する。その際、生徒は複数の道徳的価値の中からどの価値を優先するかの判断を迫られることになる。こうした問題や課題について、多面的・多角的に考察し、主体的に判断し、よりよく生きていくための資質・能力を養うために問題解決的な学習が重要である。
- 職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かし、体験を通して感じたことや考えたことを基に対話を深めるなど、心に響く多様な指導の工夫に努めることが大切である。

令和４年度（１年次）の研究推進にあたって

（１）各支部主題研修会と県大会参加にあたって

県道徳専門部総会での主題についての説明をもとに共通理解を図った内容を各支部会員で共有してください。その内容をもとに、各校の実践研究を行い、支部研究協議会での協議を踏まえて、県研究協議会への参加をお願いします。

（２）県研究協議会の持ち方、発表支部について

① 期　　日　２０２２年１０月６日（木）　県中教研研究協議会会津大会
② 会　　場　下郷町立下郷中学校
③ 発表支部・学年　岩瀬、いわき（１年）　郡山、東西しらかわ（２年）　伊達、石川（３年）

令和３年度　道徳専門部会組織

部　長		伊　藤　隆　幸（西 根 中）
副部長		佐々木　　透（月舘学園）
〃		岡　崎　寛　人（玉 川 中）
〃		津　金　光　彦（猪苗代・東中）
〃		髙　瀬　永　志（磯 部 中）
総　務		佐　藤　弘　子（吾 妻 中）
庶　務		佐久間　紀　子（清 水 中）
研究部		菅　野　千　春（福島一中）
〃		飯　沼　千賀子（福島四中）
〃		佐　藤　直　恵（信 夫 中）
〃		大　室　麻由美（大 鳥 中）
〃		高　橋　卓　史（福大附属中）
会　計		嶺　岸　陽　子（北 信 中）
支部長	福　島	伊　藤　隆　幸（西 根 中）
支部長	伊　達	佐々木　　透（月舘学園）
〃	安　達	高　原　栄　治（岩 代 中）
〃	郡　山	二　瓶　浩　治（安 積 中）
〃	岩　瀬	須　藤　瑞　穂（長 沼 中）
〃	石　川	岡　崎　寛　人（玉 川 中）
〃	田　村	酒　井　　泰（船 引 中）
〃	東西しらかわ	野　崎　浩　二（西郷一中）
〃	北会津	津　金　光　彦（猪苗代・東中）
〃	耶　麻	笹　川　英　俊（喜多方二中）
〃	両　沼	宮　城　裕　樹（湯 川 中）
〃	南会津	我　妻　雄比古（下 郷 中）
〃	相　馬	髙　瀬　永　志（磯 部 中）
〃	双　葉	鈴　木　　博（富岡一中）
〃	いわき	山　崎　喜　保（内郷二中）

令和３年度部会事業の概要

月　日	場　所	要　項　・　内　容
～５月上旬	各支部	◎支部道徳専門部総会 ○令和２年度事業報告・決算報告 ○令和３年度事業計画・予算案 ○研究内容と研究推進計画 ○役員改選
５／６（木）	福　島	◎県中教研総会 ◎県道徳専門部総会 ○令和２年度事業報告・決算報告 ○令和３年度事業計画・予算案 ○研究内容と研究推進計画 ○役員改選
５／18（火）	郡　山 三穂田 中学校	◎道徳専門部主題研修会 ○令和３年度研究主題確認 ○研究内容と研究推進計画　【中止】 ○県研究協議会の運営 ○各支部研究協議会の運営
～６月	（本部） 各支部	◎主題研修報告会（資料作成・報告） ○支部研究推進の確認　【中止】
７月下旬	各支部	◎支部研究協議会（夏季） ○研究主題（平成３０～令和３年度） 人間としての生き方についての考えを深める道徳の学びはどうすればよいか ○３年次研究副主題 「生徒の学びの姿を見取る評価の工夫」

月　日	場　所	要　項　・　内　容
10／7（木）	県　北 相　双	【中止】資料送付開催 ◎県中教研研究協議会県北（相双）大会 ○会　場　相馬市立中村第一中学校 ○授業者 １年　T1陣野靖広先生（中村一中） T2大和田千波先生（〃） ２年　２学年職員 （学年代表　村上惇先生（〃）
～10月下旬	事務局 各支部	◎県研究協議会報告書のまとめ （開催地区から県総務へ提出） ◎県研究協議会報告会
８月～１月	福　島	◎道徳専門部事務局会 （8/4、12/27、1/6） 次年度研究副主題の検討
２月上旬		※紙上開催 ◎研究推進委員会（専門部長会） ○内容　研究副主題解説の検討
２月下旬	事務局	◎道徳部報第５４号編集完了 ◎事務局会 ○令和３年度事業・会計のまとめ ○令和４年度事業・予算
～３月	各支部	◎道徳部報第54号 HP 掲載（3/1予定） ◎支部研究のまとめと次年度計画